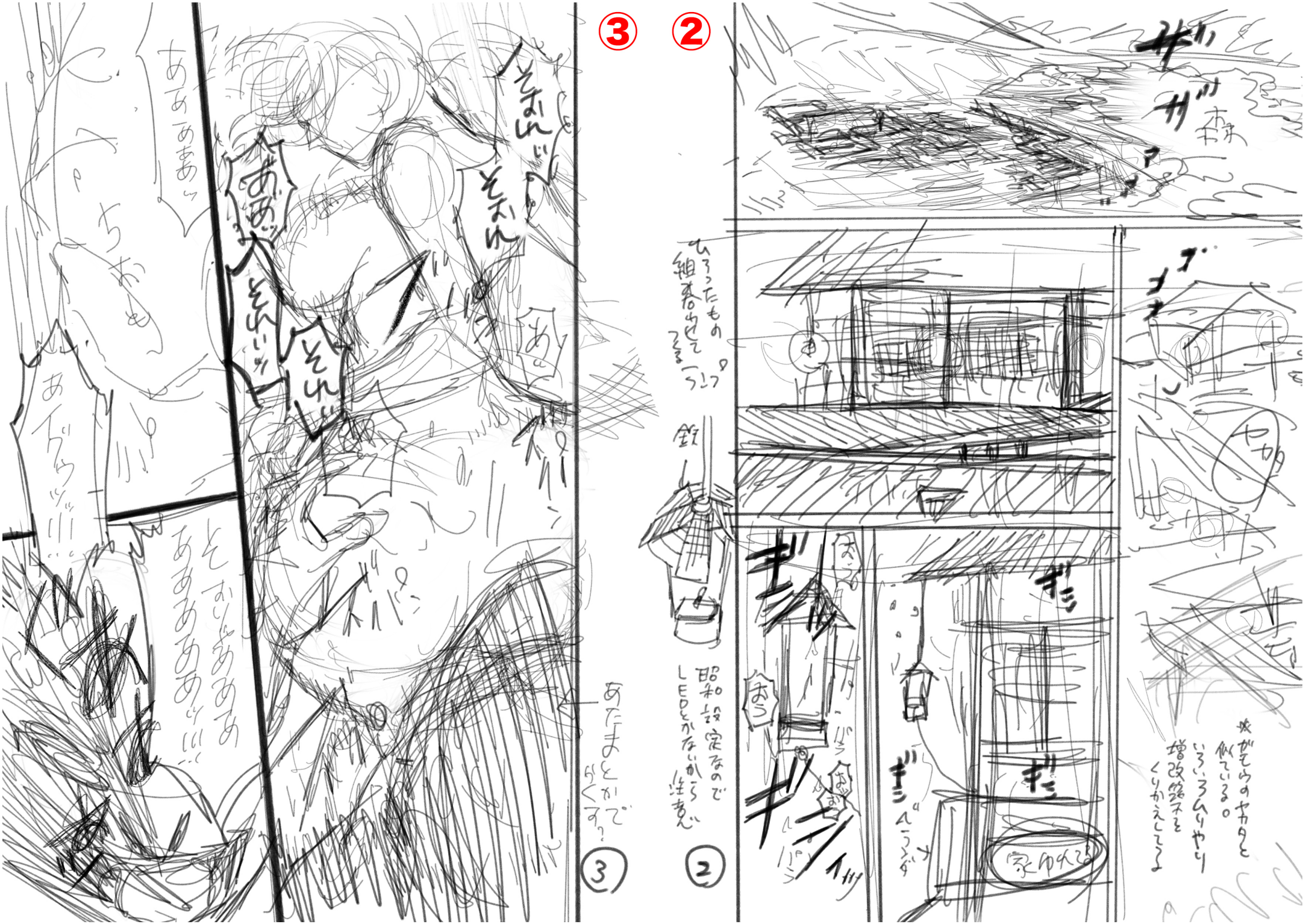
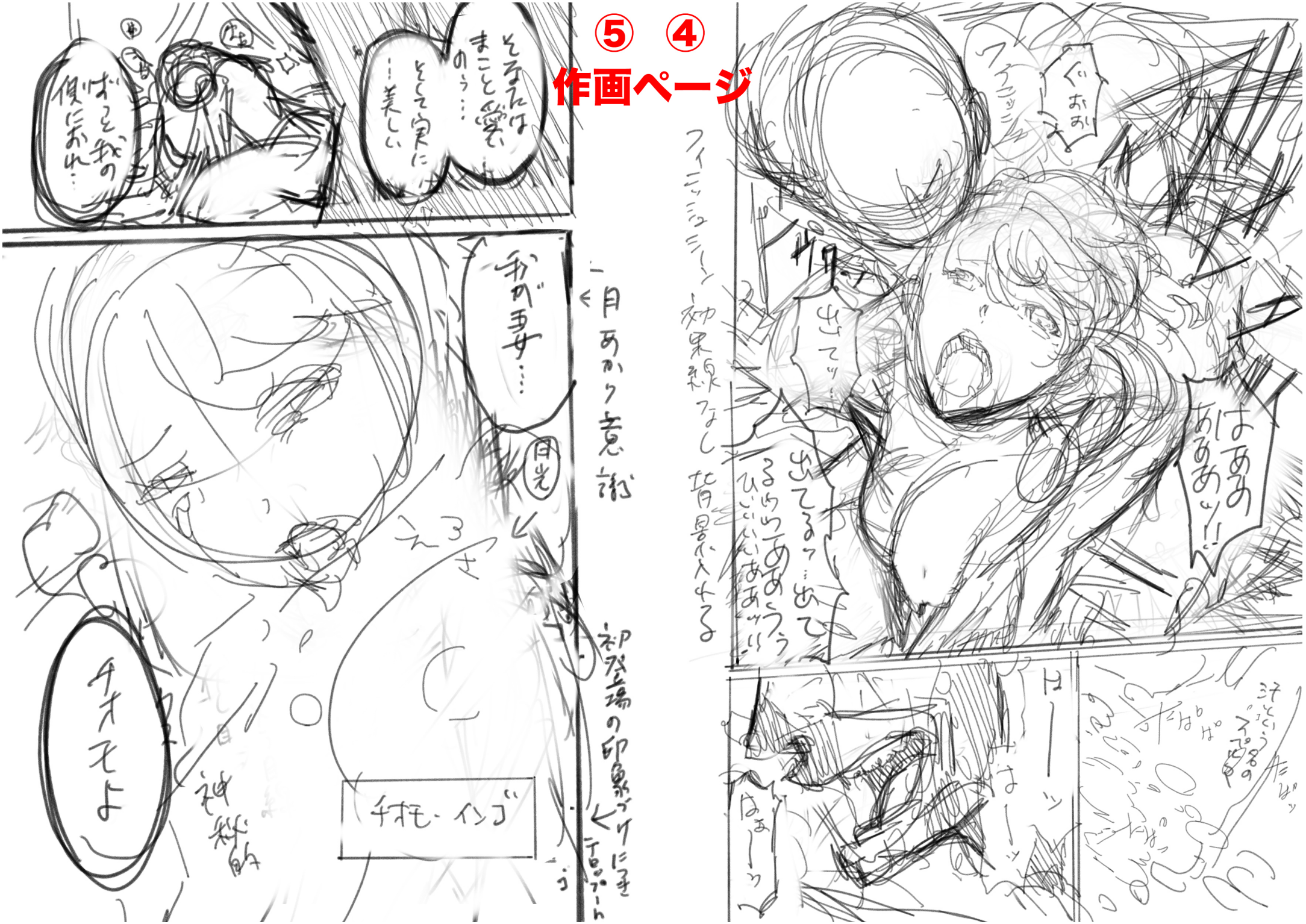
1
雲が
そこそこなくうずまく
山頂の前ってかんじ
波があらい
昭和六〇年
—西暦1985年—
日
空
太平洋のどこかに浮かぶ
海図にない島——


②
③
ガガ
森
ゴゴ
ヤカ
ギシ
ギシ
ギシ

⑤ ④ 作画ページ


ぐおおお
フィィィッッ
はあああ
あああッ!!
出てッ
出てるッ…出てるッ
ひぐいいいあああッ!!
フィィィッッ
初果泉なし背景入れる
ハーッ
ハーッ
ハーッ
汗とかいろいろ
ぱたぱた
ぱたぱた
ぱたぱた
そそれはまことに愛の
のう…
とても実に…美しい
ぱると我の俱に居れ…
我が妻…
月光
月あかり意識
えっ
さ
初登場の印象づけにまた
チオ・プート
チオ・インゴ
神秘的
チオそよ

⑥

ゴジョウさま…
…もったいのうございます…
どうする…
もう一戦…敵する前に湯みに入るか…？
ゴジョウ様…
千夏
千夏
如何とな？
…
スッ…
…
そっ
そっ
1～2ヶ月なのでふくらんでない

⑦

…わやろを授かりまして…
何？
ゴジョウ様の…
おお…
おおおお
お子を孕みまして
ちおも
アアア

⑧

でかしたぞ…チオモ！

おまえの子を…我はまっていたのだ！

ゴジョラ・インゴ
（現：インゴの帝王）

⑨

…でも

ご子息なら たくさんいらっしゃいましょうに…

阿呆!!

お前の子供こそ我が世継ぎにと決めていたのだ…

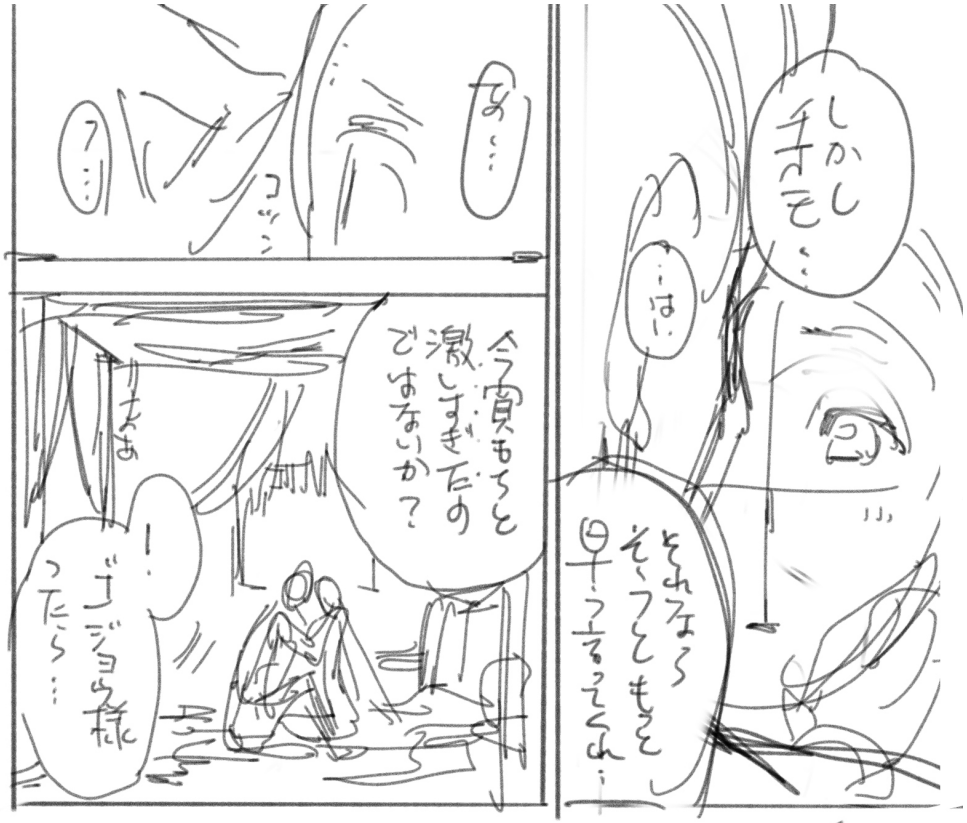
ゴリ

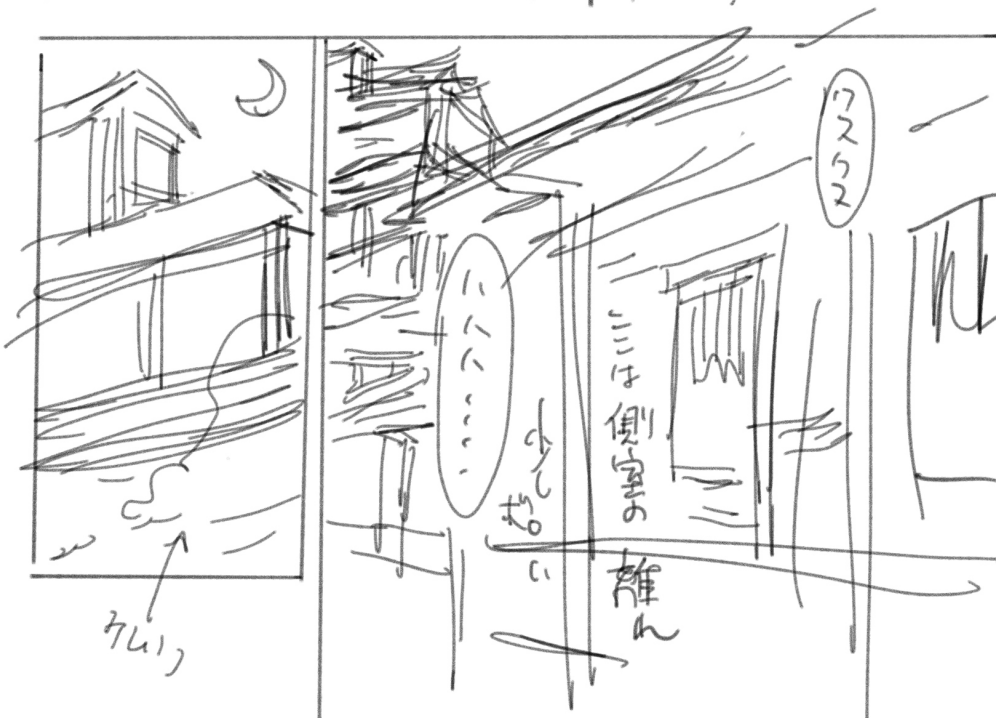
……ッ

お前の肚から出た者こそ我が跡目…

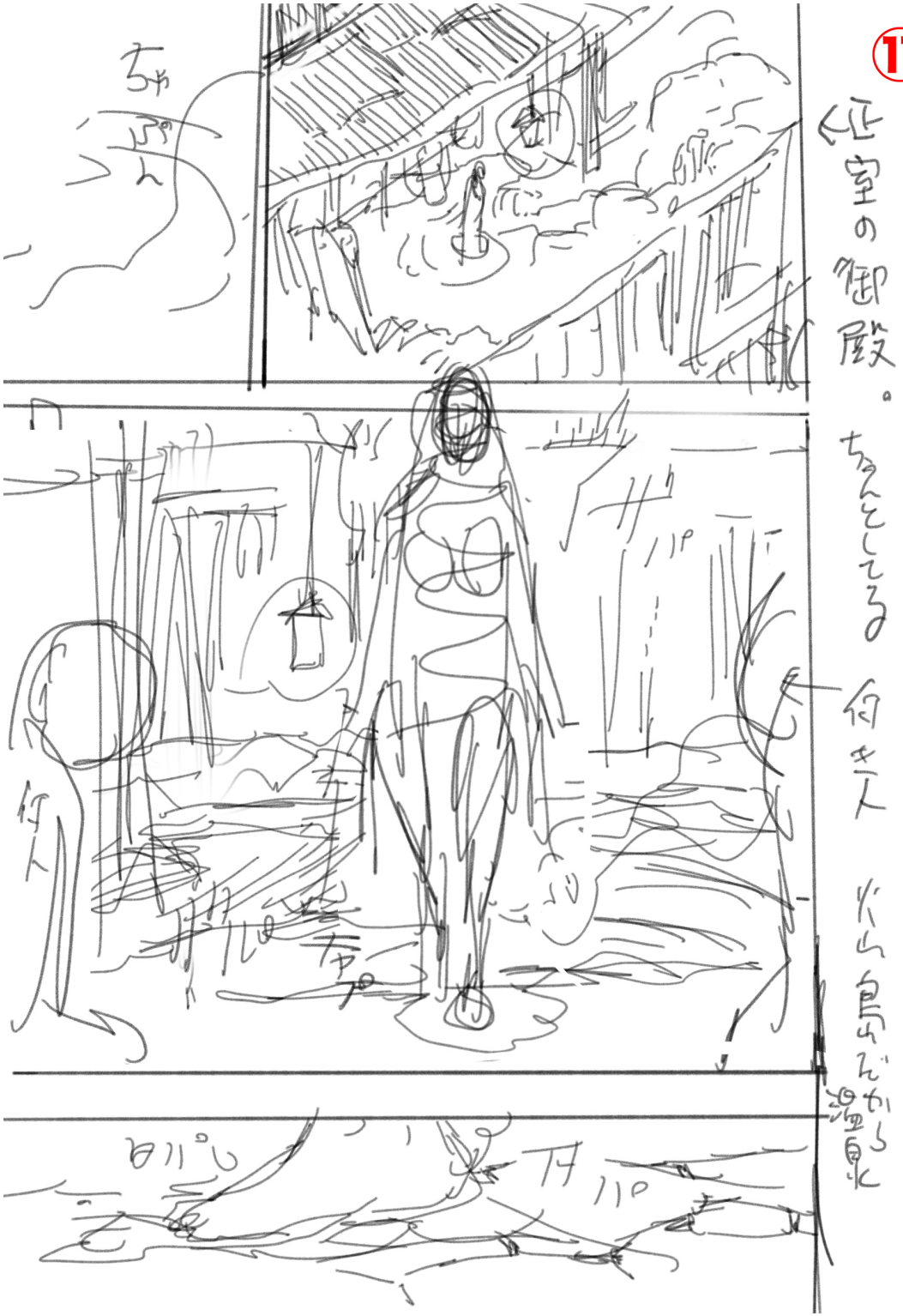
王の血を継ぐ者よ！

⑩


しかし手さき…
はい
それなら そっちもまとめてやってくれ…
な…
コッ
フ…
今宵もちと激しすぎたのではないか？
ちょあ
！ ゴジョウ様ったら…


クスクス
ここは側室の離れ
ハハハ…
少しな。
クルリ

⑪


ちゃぷん
正室の御殿。ちゃんとしてる
何者
火山島だから温泉
何人
ポポ
ポポ

⑫

ゴゴラウ様は…

またギタレの寝所へ…？

カナレ・インゴ
インゴの正妻・女王

はい…今宵は床にお戻りになることはないかと…

⑬

ギッ

□惜しや…

ギリッ

ゆらゆらとカンゴに

目にもの見せてくれるわ

…あの発情猫…っ！

15
14
ゴゴゴ
ゴゴゴ
アマミヤ
ナオハラ

⑯

我らインゴの子

……天よりのオメグミ……

大いに祝りん……!!

ドン

ゴゴゴゴ

いらぱい

⑰

者共ッ!!

ダイギンである

兄・ゴジョウに代わり我が此度の指揮者となる……!!

ダイギン・インゴ
インゴの執政官

天よ……豊穣なるメグミを!!

うおおおおー!!!

天よ…

山よ…

海よ…

豊穣なるメグミをもたらせ…

然わばよ……

おいのりは手の甲を合わせる

死者の手

我ら大いなる二エをもって報いラン……!!!

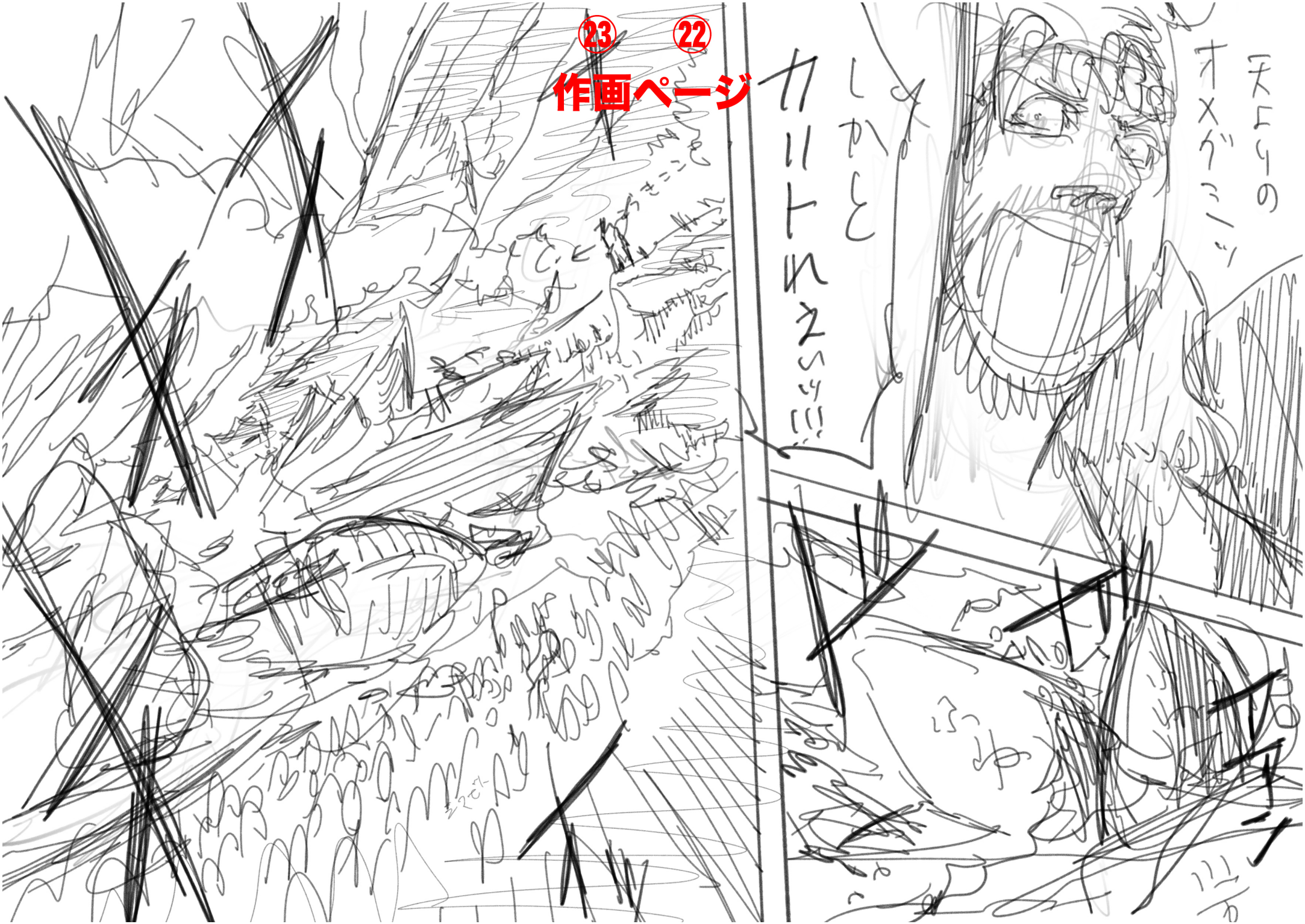
ガラガラガラガラ

アリ

かみなり

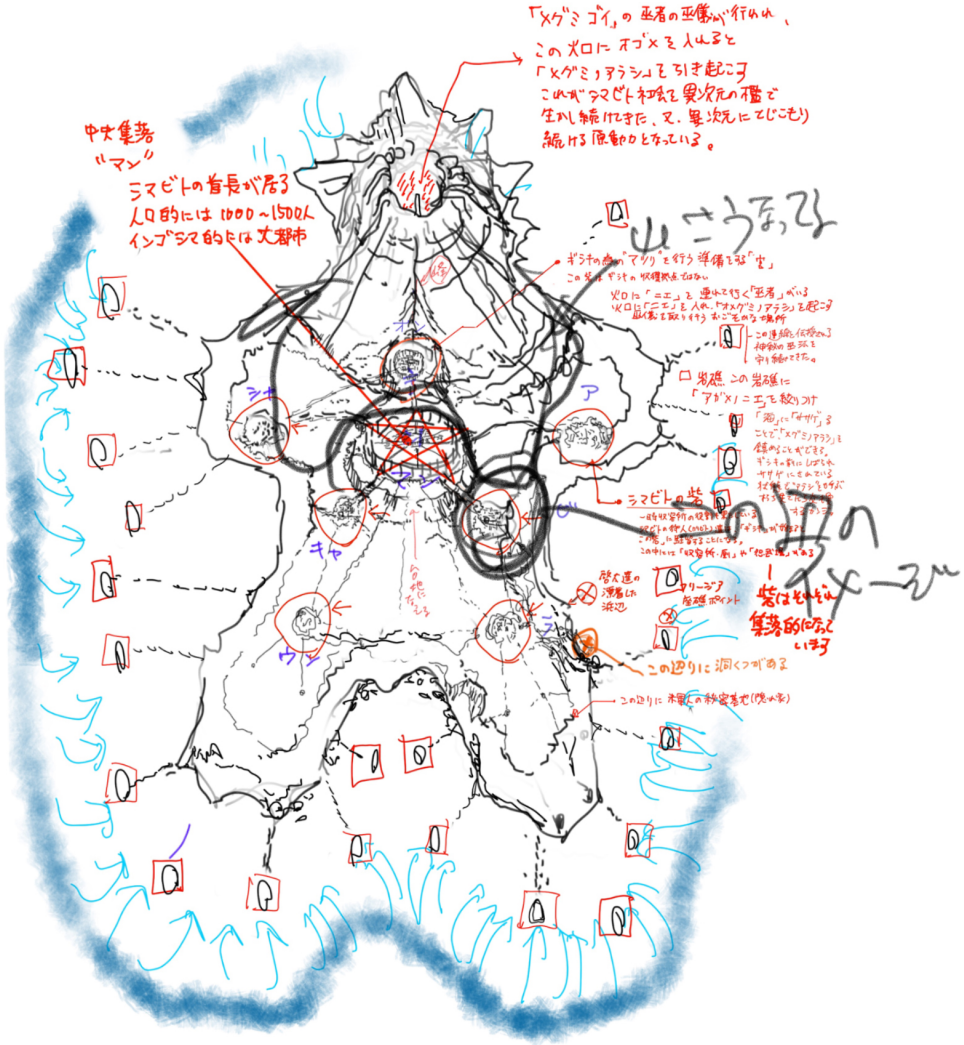
ひこうきのエンジン

21
20
ガイギン


㉓ ㉒
作画ページ
天上のオメガミッ
しかと
カルトれえいッ!!!

◎インゴシマ

これが少し小さくなってます
火口など、位置の変更アリ



山さうなってる

山のイメージ

『カムゴロシ（仮)』作画コンペ用シナリオ

1

ナレーション「昭和六十年・西暦 1985 年」
ナレーション「太平洋のどこかに浮かぶ、海図にない島――」

●インゴ王族の屋敷・一階の居室(夜)

激しい息遣い。
爆音がリズミカルに轟く。

ゴジョウ「おう!おう!おう!!」
???「ああああああっ!」

美しい女性の痴態が愛液に塗れ、月夜に照らされ美しくしなる。

???「ゴジョウさま!ゴジョウ…ッ!ゴジョウサマアアッ!!」
ゴジョウ「そぉれそぉれそれぇええい!」

永遠とも思える激しいピストン。
そして絶頂。

???「ああっ!イクアァァアァァァァッッ!!」
ゴジョウ「そおおりゃあああああ!!」

滝のように溢れ出す精液は美女の中には収まり切らずにガモウの肉棒を掻き分け噴水のように射出された!!
ブビュッ!ビュビューーーーウウッ!!

???「はあああああああっ!!出てるっ!出てるっ!ああっつぅひぃぅぅぅぅっ!」
ゴジョウ「はーーーーーっ!はーーーーーっ!」

火照る体を落ち着かせる二人。
まだ息は荒い。

ゴジョウ「そなたは…愛いのう…誠に美しい…チオモ。我が妻よ」
チオモ「ゴジョウさま…もったいのうございます」

ゴジョウ「どうする。もう一戦…致す前に、湯浴みに参るか?」
チオモ「ゴジョウさま…」

ゴジョウに優しく語りかけるチオモ。

ゴジョウ「如何した?」

チオモ、そっと腹に手を当てつつ

ゴジョウ「?」

肚を見たままチオモは静かに報告する。
チオモ「…ややこを授かりましてございます」

ゴジョウ「…なに?」
チオモ「ゴジョウ様のお子を孕みました」

顔を上げ、ゴジョウに向かってニッコリと優しい母のように笑うチオモ

ゴジョウ「…おお!おおおおおお!!でかした!でかしたぞチオモ!」

大喜びのゴジョウ。
チオモを抱きかかえて喜ぶ。

ゴジョウ「それでこそワシのチオモじゃあ!!そうかそうか!お前の腹から出た子

を待っておった！」

チオモ、少し表情をかげらせて

チオモ「でも…ご子息様はたくさんいらっしゃいましょうに…」
ゴジョウ「阿呆!お前の子供をこそ、我が世継ぎにと決めていたのじゃ！」

ジッとチオモを見つめるゴジョウ
チオモ、見つめ返す

ゴジョウ「お前の肚から出た者こそ、我が跡目となる血族よ!!」
チオモ「はい…!」
ゴジョウ「しかしチオモ。それならそうと、もっと早う言ってくれ。今宵もちと激しすぎたのではないか?」
チオモ「!(クスクス　ゴジョウ様ったら…」
あはは、うふふと喜び合う二人。

●インゴ王族の屋敷・一階の居室（夜）

湯浴みをすませて出てきたカナレ。
火照った半裸の身体を使用人のシマビトに大きなウチワで扇がせている。

側女に尋ねるカナレ。

カナレ「ゴジョウ様は…また【キタ】のところへ？」
側女「はっ…今夜はお戻りにならないと」

我知らず、ギリっと歯を食いしばるカナレ。

カナレ（口惜しやァ…ッ!）

持っていた扇子(多分どこかの船のお土産)を投げ捨てる。

カナレ「目にもの見せてくれるわ…発情猫…っ!」

2

●インゴ島の海岸線・嵐直前

儀式の嵐が吹き荒れ、島の周囲 50 海里(92.6Km 四方)ほどを真っ黒な雲とも煙ともつかぬ闇の衣がおおう。
海岸線を眺めるようにシマビトたちがワラワラと整列しちゃってる。
(ゾンビみたいに見える)

モーセのように崖に立ち、海に向かって大麻を振るう神官。
空には雷鳴轟き、海はあれ昼間というのにまるで夜の闇。

大雨のカーテンが島を囲む…。

神官「我らインゴの子…天よりのオメグミ大いに祝わん…!!」

『天贄大祝（仮)』が始まる。

神官の後ろから、巨大な影が歩みいでる。
ゴジョウ・インゴその人。周囲には親戚たち。
インゴ一族に伝わる太刀を抜き放ち、天に掲げた。

ゴジョウの代わりとして、インゴとシマビトらの前に立ち、大きな斧を振りかざすラオウのように大柄な男、ダイギン・インゴが崖にたつ。

ダイギン「各々。準備はいいなあッ」

振り返る一同。

一同「おおおおおおおおおおおおお!!」

至る所で篝火がたかれ、マジモノが焚かれる。
そしてみんな、マジコリを飲む。

ダイギン「天よ…山よ…海よ…豊穣なるメグミをもたらせ… 然ればよ、我ら大いなるニエを持って報いラン!!」

その言葉が終わるか否か、雷鳴と稲光が島をぐるっと囲んだかと思うと、そこから嵐の波に乗って、船がザザあああああっと押し寄せる!
そしてシマビトたちの直上をコントロールを失った貨物機のような飛行機がぐわあああああああんん!!と頭上をかすめる!

ダイギン「モノども!!!天よりのオメグミ、しかとカキイレよッ！！」
一同 「ううおおおおおおおおおおオォォォォォォォォォォォォォッッ!!」

インゴ一族の司祭たちが笙を吹きならす。
シマビトたちはイキリ立って海岸線に打ち上がる船に殺到していく。

【主要キャラクター設定】

ゴジョウ・インゴ（41 歳）

シマの王。五人の妻と六人の子をもうける。10 代で先代の王から王座を受け継ぐ。
仁徳の男。※オメグミやギシキはシマの常識として執り行っているが残虐性はない

チオモ・インゴ（30 歳）

ゴジョウの最後の妻。
シマの北端の集落に暮らす「分家」の出身。
ゴジョウの愛を独占したことで「本家」カナレの恨みを買い、数々の嫌がらせを受ける。

カナレ・インゴ（39 歳）

ゴジョウの最初の妻。「本家」出身。
インゴの中でもエリートの血筋。「女王」らしい品格がある。
息子をゴジョウの正統的な後継者として確定させるために、あらゆる手段を画策している。

ダイギン・インゴ（53 歳）

ゴジョウの叔父（父の弟の息子）。
一族の中にも支持する者の多い実力者であり、ゴジョウが不在の時は王としての務めを代行している。
先代の王が死んだときには次代に推す声も多かったが、遺言に従いゴジョウが王の座についてからは、よき補佐役として彼を支えている。